

ASDAR システム

静止気象衛星「ひまわり」の機能の一つに、船舶や航空機等で観測した気象観測データを収集し、地上の処理局（気象衛星センター）に送信してくる重要なミッションがある。

世界中を飛行する航空機の観測データは、高層観測データの一つとして、貴重である。

ASDAR システム（Aircraft to Satellite Data Relay システム）は、航空機に搭載されたデータ伝送システムである。航空機が飛行中に取得する観測データ（測定システムは従来と変わらない）は自動的に ASDAR に記憶され、一定時間毎に、静止気象衛星にデータ伝送が行なわれる。

日本、米国および欧州宇宙機構（ESA）等が協力して整備した静止気象衛星網が、ASDAR データ収集責任範囲を分担しあっているため、航空機の飛行に伴い、全航路のデータが収集可能となっている。日本の収集責任範

囲は、 $60^{\circ}\text{E}\sim 180^{\circ}\text{E}$ である。

7.5分毎に、緯度・経度、観測時刻、高度、気温、風向および風速が測定され、1時間で8個のデータが ASDAR システムに記憶される。毎時各航空機毎に定められている送信開始時刻になると、自動的にデータ送信が開始され、静止気象衛星経由で地上処理局にデータが送られてくる。受信データは、WMO の AIREP コードに変換され、GTS に入力される。

気象衛星センターでは、昭和53年9月からデータ収集テストを始め、昭和54年1月11日から運用を開始し、収集データを ADESS を介し、GTS に入力している。送信した通数は、昭和54年1月2968通、2月2544通、3月7896通であり、今後は ASDAR システムの搭載機数が増加すると共に通数も増加しよう。

（気象衛星センター）

気象学会および関連学会行事予定

行 事 名	開 催 年 月 日	主 催 団 体 等	場 所
日本気象学会関西支部 第1回夏季大学「新しい 気象学」大阪教室	昭和54年8月1日～3日	日本気象学会関西支部	大阪市立労働会館
気候変動に関するシンポ ジウム—雲と放射の問題 点を中心にして—	昭和54年8月24日		気象庁講堂
第2回 MONEX 研究会	昭和54年8月30日～31日	CARP 分科会	東京大学海洋研究所
月例会「大気数値シミュ レーション」	昭和54年9月5日	日本気象学会	気象庁第1会議室
気候変動に関するシンポ ジウム—海の問題を中心 にして—	昭和54年9月13日		気象庁講堂

（426頁へつづく）